

幼稚園・保育園のわらい  
内容に応じた会話を友だちとしながら、自分とは別の考えがあることに気づき、受け入れていく。  
カリキュラムNo.34・・・やさしい子ども・・・

## 一緒にやってみる！

～友だちとの会話から気持ちが切り替わった～


11月

南城保育園

### ☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

- ・これまでに運動会やいくつかの集団遊びを経験し、友だちと触れ合ったり、かかわったりしながら遊ぶおもしろさを感じるようになってきている。気の合う友達を誘い合って遊び、友だちとのつながりに少しずつ深まりが見られるようになってきた。
- ・一方で、友だちと同じようにやってみたいけれど、できない（できないかもしれない）という自分の姿も感じ、葛藤している様子も見られる。

### ☆ 経過 ☆（自由遊びの中で展開された鬼ごっこ）

園児の姿	環境や援助（◎）・読み取り（☞）
<p>○朝の自由遊びに園庭で氷鬼（鬼ごっこ）を6～7人の子どもたちが集まって遊んでいる中、A子だけがベンチに座っている。</p>	<p>◎A子の姿が気になった保育者は、しばらく様子を見ながらさりげなく周りにいた子に声を掛けていった。</p> <p>◎保育者が直接A子を誘いかけるのではなく、友だちとのかかわりを持てるような働きかけをしていく。</p> <p>◎「どうして、A子ちゃん一人にいるんだろうね？」</p>
<p></p> <p>○「走りたくなかったんじゃないかな。」 「走るのが遅いから嫌なんじゃない？」 「走るのが遅いならさ、速い人と一緒に逃げてみたら。」 「鬼はAちゃんを追いかけなきゃいいんじゃない？」 「鬼なのに？」 「誰かが守ってあげればいいんじゃない？」</p>	<p>☞ 周囲にいた子どもたちは、自分の経験と重ね合わせながら、A子の気持ちを汲み取ろうとしている。</p>
<p>○A子の周りに集まり、誘いかけたり、話しかけたりしている。</p> <p>○A子は気まずさもあってか黙り込んでしまった。</p>	<p>◎保育者はA子に寄り添いつつも、子ども同士で話している際には、あまり言葉を掛けずにやりとりを見守っていく。</p>
<p>○しばらくすると「鬼ごっこはやりたいけど、足が遅いから嫌だった。」と自分の思いを話し始める。</p>	<p>☞ 仲間として自分のことを受け入れようとしている友だちの言葉がA子の心を動かしている。</p>
<p>○「やりたくなったら来てね。Aちゃんのこと待っているからね。」 「遅くてもあきらめなければいいんだよ。」</p>	<p>◎A子のことを考えながら言葉を掛けあっている姿を認めたり、共感したりする。</p>
<p>○じっと友だちの言葉に耳を傾けるA子。</p>	<p>☞ A子は友だちの思いや考えが分かって、心が通い合う嬉しさを感じ取り、遊びに加わってみよう心が動いた。</p>
<p>○その後、少しずつみんながいる所へ行き、「入れて」と遊びに加わっていった。</p>	

### ☆ 考察 ☆

子どもたちは、これまでの経験や友だちとのかかわりを通し、相手の気持ちを感じる力が育ってきて、自分の思いと相手の思いを調整しながらかかわろうとしている姿が見られた。

相手に受け入れてもらう安心感が持てるようになると、それが自信や意欲、気持ちの切り替えにつながる。一方的な会話にならないように、相手の話に耳を傾け共感したり、気持ちや言葉が相手に伝わりにくい時には、保育者が状況に応じて言葉を補ったりするなどの日々の細やかなかかわりや援助が、子どもの育ちにつながっている。